

第1章 市川市の教育の現状と課題

市川市では、平成21年3月策定の第1期計画に示された47の教育施策と、それに伴う202の事業（後期実施計画編）を通して、第1期計画の基本理念である「人をつなぐ 未来へつなぐ 市川の教育」の具現化を図ってきました。

「人をつなぐ教育」とは、家庭・学校・地域・行政が一体となって子どもを育てていく教育であり、「教育の共有化」という理念のもと、コミュニティサポート^{※1}やコミュニティクラブ^{※2}などの地域教育力の組織化を図る施策も定着し機能しています。

一方、「未来へつなぐ教育」とは、学びと育ちの連続性を大事にして、個性の伸長を図り、子どもの夢や思いを実現する教育であり、「教育の接続化」という理念のもと、中学校ブロック単位における指導の一貫化などの取り組みを通して、進級・進学時の滑らかな接続と適切な段差の設定を図り、長期的な視野に立った教育、そして生涯学習の実現を目指しています。

昨年実施した「平成24年度の教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価等」では、対象となる202の実施事業の内、187の事業（92.6%）がA評価（「計画どおり進められた」）となっており、また、施策の効果を測る指標の評価においても、計画が開始された平成21年度（一部平成23年度）と比較して、106項目中77項目（72.6%）で結果の向上が見られます。

こうしたことから、第1期計画の基本理念及び基本的方向については、正しい方向を示しており、一定の評価をすることができるものであると考えています。

しかしながら、「児童生徒の自己肯定感」「教職員の多忙感解消」「地域ぐるみでの道德教育の推進」「早寝・早起きなどの正しい生活リズム」「体力・運動能力の向上」「PTA活動の活性化」「不登校・いじめの解消」「教育委員会の施策・活動の認知」「生涯学習機会の認知」といった項目については評

●市川市の教育の現状と課題●

価が伸び悩んでおり、第1期計画のねらいの達成はいまだ途上にあると考えられます。

一方、第1期計画期間中における市川市や社会の変化・出来事などにより、以下のような新たな教育課題も浮上しています。

- 東日本大震災の教訓を生かした防災教育、「人の絆」の大切さについての教育
- 完全実施された新学習指導要領の趣旨の実現に向けた教育活動の充実
- コンピューターシステムの全面更新に伴う、学校教育のICT^{※3}活用の推進
- いじめ問題の解消・根絶を目指す、「豊かな心」を育てる教育の充実
- 部活動や授業など、指導の場における体罰の根絶
- いじめ、体罰による自殺など、学校教育に起因するさまざまな事件・事故に対する、学校・教育委員会の適切・迅速な対応力の向上、信頼回復
- 子ども・子育て支援新制度の導入に伴う、幼児教育システムの再構築

以上の点から、第2期計画の策定及び実施にあたっては、第1期計画における基本理念及び基本的方向を継続した上で、さまざまな検証結果により明らかになった、いまだ達成が不十分な項目や、新たに浮上してきた教育課題などをふまえ、施策の見直し・改善を図ることとしました。

※1 コミュニティサポート・・・家庭・学校・地域の連携を一層推進し、子どもの教育・育成に関して、情報や意見を交換し、協議などを行う場

※2 コミュニティクラブ・・・「あそび」をキーワードに自然体験・社会体験などを子ども向けに実施している地域のボランティア団体

※3 ICT・・・情報通信技術、ITとほぼ同意